

樹合百

発行
岡山市北区祇園866
旭川荘
障害者支援施設
愛育寮
発行人 宮崎 祐子
TEL 086-275-4644
FAX 086-275-5645
<http://www.asahigawasou.or.jp/aikuryo/>

コロナ禍の中での戯れ言

支援課長 吉富美智恵

得体的にしない新型の感染症が初めて報道されて、早3年の月日が経った。私たちは、この感染症に対して、旭川荘新型コロナウイルス対策本部からの情報や指示を受け、ご利用者さまを守りたいとの思いで、「3密回避」等、感染症予防に精一杯努めさせて頂いた。この間、ご家族さまの訪問すら遠慮して頂くようお願いをし、いろいろ思いも沢山あったのではないかと思います。

また、もしも陽性者が出たら...とシミュレーションを生活棟毎に行ってもいた。それでも、令和4年11月。それは突然爆風のように襲った。多くのご利用者さまと職員が感染した。クラスターである。多くの方々に憂慮させた心痛は計り知れない。幸い、重症化は免れ、みな回復された。程なく、クラスターについて職員に聞いてみた。想像を絶する多くの不安と使命感を持って職務に就き、刻々と変わる情報提供等に疲弊していたこと等心えられる範囲で教えてもらった。申し訳ないことに、その時は気づけなかった。当事者の意見に耳を傾け聴かせてもらうことは支援の基本であるのにと猛省した。

今改めて、「コロナ禍の3年間を振り返ると、ご利用者さまやその人を取り巻く関係者にとって、かけがえのないものが浮き彫りにされたのではないかと感じている。

現在、愛育寮のご利用者さまの平均年齢は58歳となった。これからの3年をどのように過ごされるか、ご利用者さまとの関係する人たちの合議により慎重に見極め、「これからの」を、「日々は好口」となるよう支援できる事を願う。

最後に、今年度も多くの「ご支援」ご鞭撻をいただいたことに感謝するとともに、今後も変わらぬ「ご支援」ご鞭撻を宜しくお願いいたします。



新年会

アトリエ

「美味しいなあー」
中区浜のおしゃれなカフェでランチを食べてきました。昨年はたくさんマットが売れ、今も注文が絶えませんでした。券をねぎらいつつ、今年も頑張ろうーとロタに話していました。



はるにれ棟

はるにれで
は1月25日に新年会を行いました。お弁当会食ではステークやエビカツなど、また午後のティータイムではチーズケーキを食され、笑顔も多く楽しい会となりました。



ミモザ棟

1月26日(木)、ミモザ利用者7名と職員3名で、とても心待ちにしていた北区半田町に行きました！店内の様々な種類の飲み物や次々と出て来るピザやパスタ、デザートを美味しくいただき、久しぶりの外出を思う存分楽しみました。



自治会

毎月開催している自治会では、利用者さんの「やりたい」に耳を傾け、実現することを目指しています。話をするだけではなく、季節に応じた会食や、地域へ出て「ゴミ拾い等」楽しさ「やりがい」を普段以上に棟の垣根を越えて楽しんでいます。



職員研修会

毎月施設内研修を行っており、今回は「虐待防止研修」と「出張報告会」を行いました。虐待防止研修では日々の支援を振り返りながら不適切な支援は早めに摘むことが大切だと学びました。また、出張報告会では今年度、外部研修に参加した職員が伝達講習を行ない、情報を共有しました。今後の支援に活かし、より良い支援を目指していきます。



今年度を振り返って

はるにれ棟

はるにれ棟は今年も11名のメンバーです。コロナが流行った時期もあり、静養を頑張る生活になった時期も皆で何とか乗りこえました。そして松島とも子さんと須田弘さんが1月に60歳の還暦を迎えました。新年会の日に皆様お祝いしました。これからも皆が元気で、楽しいと思える時間が作れるようにしていきたいです。



アイビー棟

アイビー棟は10名の方が生活されています。寮内のコロナ感染の対策期間中は落ち着いて過ごす事ができました。外出が延期になることもありましたが、寮内での行事や会食を楽しみに笑顔で参加される様子が見られました。体心も今年度と同じように元気に過ごせるよう、体力作りや楽しい行事の計画をしていきたいと思えます。



あかしゃ棟

11月にあかしゃ棟利用者全員がコロナに感染してしまいました。隔離解除まで、不自由な生活を強いることになりましたが混乱される方もなく落ち着いた居室で過ごしていただきました。また体調不良や骨折で入院をされた方もいました。年齢とともに身体の変化が見られますが、今後も活き活きとした暮らしを送られるように利用者の希望を盛り込んだ会食やイベントを企画実施していきたいと思えます。



あんず棟

あんず棟は10名で仲良く生活しています。日々それぞれが好きなこと得意な活動(パズル、紙破りなど)をしたり、フッフルやアイスなどの会食を楽しんだりしました。今年度もコロナ禍での生活でしたが、感染症対策をとりながら木下大サーカスやドライブ外出などを楽しみました。今年も笑顔の多い1年になりました。



ミモザ棟



ミモザ棟は12名の方が生活されています。去年まで、コロナのため封鎖していた玄関を開錠したことで、好きな時に外に出ることが出来る様になりました。また、マスクなどの感染対策を行って外出に行ったり、ケーキ会食やお弁当会食など、皆が好きなことをして、好きな物を食べたり、楽しんで笑顔になれる時間を作ることを大切にしました。



オリーブ棟

今年度もコロナ感染対策が続いていますが、その中でも出来る楽しみを見つけて、日々過ごしています。体力維持と気分転換を目的に戸外ウォーキングを頑張り、室内ではそれぞれが好きなこと、得意なことをして過ごしました。パズルが得意になった人、部屋



の片づけが上手になった人、たくさん話をしてくれるようになった人...オリーブ棟はまだまだ成長中です。



衛生

「〇〇さん、陽性です。」「うそーっ!!」「11月17日の18時20分、外来看護師長からの電話に思わず叫んでしまいました。翌日からあつ



という間にクラスターとなり、ソーニング、物資の供給、医師や保健所との連携、ご家族への連絡、薬の準備...職員も次々離脱する中やるべきことが山積みでした。またレッドゾーンで利用者支援を行ったスタッフは、慣れない防護服を着用し不安や緊張の中、バイタルチェック・個室対応と通常以上の業務を丁寧に実践してくれました。対策本部、関連施設の協力も頂き、重症者が出ることなく無事に12月5日に収束することができました。今回の経験から学べた事を活かして、今後も感染症対策に取り組んでいきます。